

栗林公園の美を検証

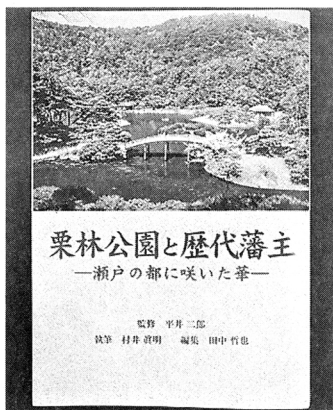
高松市文化協会 平井会長ら冊子出版

今年で名勝指定100周年を迎えた栗林公園(高松市)の美しさを、歴史と庭園としての観点から探る冊子「栗林公園と歴代藩主―瀬戸の都に咲いた華―」が出版された。高松市文化協会の平井二郎会長ら有志3人が調査・研究を続け、その成果をまとめている。

同書は、平井会長が監修、元県観光交流局長の村井真明氏が執筆、元西日本放送ラジオセンター長の田中哲也氏が編集を担当し

た。3人が地元の歴史について語り合う中で、同公園の「美」がどのようにして生み出され、どのような変遷を経て現在の姿になったのかをさまざまな資料を基に検証しようと企画。手軽

「栗林公園と歴代藩主―瀬戸の都に咲いた華―」の表紙



に読めるハンドブックにまとめた。

2章で構成。第1章では、同公園の観光案内を歴史という縦軸と庭園の概要という横軸で説明。偕楽園、兼六園、後楽園の三大名園のよつに「園」ではなく「公園」となった経緯にも触れている。第2章では、庭園内の景勝地を分かりやすく解説している。

美巧社刊。A5判、248ページ。1760円。

◆ ◆
11日午後1時から同公園内商工奨励館北館で、平井会長、村井氏、田中氏の講演会(無料、別途入園料は必要)が開かれる。